

特別支援学校における「個別の教育支援計画」 「個別の指導計画」の活用に関する一考察

和田 充紀・栗林 睦美*・池田 弘紀*

A Study of "Individual Education Support Plan" and
"Individual Education Program" in the Special Support Education

Miki WADA, Mutsumi KURIBAYASHI, Hiroki IKEDA

摘 要

特別支援教育において「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成が進んできており、意義や重要性は認識されているが「保護者との連携」や「関係機関との連携」についての難しさが課題となり、十分に活用されていない現状がみられる。そこで、対象校をあげてアセスメントから目標設定、実践、評価までを具体的に検証し、効果的な「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成と活用の在り方を追求することを目的とした。

キーワード：特別支援教育、個別の教育支援計画、個別の指導計画、TOFU プラン

keywords：Special Support Education, Individual Education Program

I はじめに

「個別の教育支援計画」は、障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、保護者をはじめとして教育、医療、福祉、労働等の関係諸機関が連携して支援するためのツール（道具）である。また、「個別の指導計画」は、児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために学校園で作成されるもので、一人一人の指導目標・内容・方法を明確にし、きめ細かく指導するための計画である。

2008年3月に告示された小学校・中学校学習指導要領や幼稚園教育要領において、障害のある幼児児童生徒の指導においては、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成することにより、個々の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的・組織的に行うことが明記された。2009年3月に告示された高等学校学習指導要領においても同様である。文部科学省（2007年）による「特別支援教育を推進するための体制整備及び必要な取り組み」でも、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について作成と活用が明記されている。

このように「個別の教育支援計画」は法的に位置づけられ、作成が当たり前になっており、幼小中高

校における「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成率は年々高くなっている（文部科学省、2013）が、まだ十分とはいえない。関係機関との連携の難しさ、校内連携・役割分担の難しさ、保護者の参画の難しさなどの課題を挙げている先行研究もみられる（広島県特別支援学校教育研究会、2008）。また、小坂・姉崎ら（2011）によると、「両計画の意義や重要性は認識されているが十分に活用されていない現状があり、保護者との連携や関係機関との連携についての関心が低い」ことが報告されている。他にも、小学校等の現場では、「明確かつ具体的な計画が作成されにくく実践に活用されにくい、関係機関との連携のための経験やスキルが不足している、関心が低い」等の事情が指摘されており（小坂ら、2011）、まだまだ実践や検討が重ねられているところである。

そのために、「今後関係諸機関を巻き込んで幅広く啓発し、情報提供を地域・保護者・関係諸機関に発信していく必要」（山口、2013）があり、「個別の教育支援計画」が有効的に活用されることが望まれる。弘前大学教育学部附属特別支援学校では、「活用マニュアルを『理論編』『事例編』『面接編』と章立てし、その重要性を冊子にまとめ職員が活用できるように整備」して、発信している（山口、2013）。

「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の

* 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校

様式は各校によってそれぞれ若干異なるが、目的や大まかな内容は共通している。また、記入例などは各都道府県の教育委員会などを中心に例示されている。しかしながら、「個別の教育支援計画」の目標がどのようにアセスメントから設定され、内容が実際にどのように実施され、どのように評価されているのかについての、具体的な実際の記入例やつながりを示したマニュアル的な内容はほとんどない。

そこで、山口（2013）が指摘するように「個別の教育支援計画の活用・連携を軸に、様々な教育活動を通して、地域における特別支援教育体制の在り方の追究」と発信をしていく必要があると考えた。前述した通り、様式が学校によって異なるなどの問題はあろう。しかしながら、今回は、小学校や中学校の現場における一助になるとともに、特別支援教育体制の在り方の追究と発信につながる基礎資料とするために、知的障害のある児童生徒が在籍する富山大学人間発達科学部附属特別支援学校を対象校として取り上げ、効果的な「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成と活用の在り方を追究する。

Ⅱ 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校における「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」活用の実際

対象校では、保護者や関係機関との連携のため、そして、現在の学校や地域での支援、また、長期に渡る一貫した支援を継続して行うために、アセスメントから評価に至るまでの情報をまとめてマニュアル化して活用している。このマニュアル、プランを「富大附特プラン（通称 TOFU プラン）」とよんでいる。「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」もこの TOFU プランに含まれており、一人一人の児童生徒に関する教育活動が全て含まれることから、富山大学人間発達科学部附属特別支援学校では、TOFU プランをキャリア教育を支える重要な計画であると考えている。次に TOFU プランの詳細を述べる。

（１）TOFU プランについて

TOFU プランは、大きく次の３つの内容で構成されている。

- A 学習活動に関する資料
- B 実態把握のための資料
- C 進路に関する資料

それらの具体的な内容について、表１に示す。

表１ TOFU プランの内容

A 学習活動に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ○個別の教育支援計画、個別移行支援計画（高3） ○個別の指導計画 ○学習連絡簿 ○引継票（学校間・進路先）、移行会議資料（校内）
B 実態把握のための資料 <ul style="list-style-type: none"> ○保健調査票 ○すこやか <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境調査 ・保護者がとらえる現在の状況と年間目標としたい項目 ・生活スケジュール ・地域生活地図 ○懇談記録（進路相談を含む） ○心理検査
C 進路に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ○ライフプラン ○進路希望調査 ○就業地区 ○就業体験記録票 ○ジョブコーチ業務記録 ○巡回記録 ○自立度評価 ○アフターケア記録

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」は「A 学習活動に関する資料」に位置付けている。「個別の教育支援計画」の目標立案においては、「B 実態把握のための資料」の「すこやか」（※資料１参照）や「C 進路に関する資料」の「ライフプラン」（※資料２参照）や「進路希望調査」（※資料３参照）などをアセスメント情報として参考にしている。

すこやか <ul style="list-style-type: none"> ●保護者から見た家庭・地域における児童生徒の実態を明確にするためのもの。第1次アセスメントとして活用する。 ●基本的な生活習慣・作業能力・コミュニケーション・社会性についての項目、生活スケジュール・地域生活地図等について保護者が年1回記入する。
ライフプラン <ul style="list-style-type: none"> ●現在そして将来の生活において連携しているまたは連携していきたい地域資源を明確にするための資料。保護者が年1回記入する。
進路希望調査 <ul style="list-style-type: none"> ●卒業後の希望進路先を明確にするための資料。保護者が年1回記入する。

（２）「個別の教育支援計画」の目標立案から評価までの流れについて

「個別の教育支援計画」の様式を図１に示す。様式は富山県での共通様式であるが、富山大学人間発達科学部附属特別支援学校では、後述する①労働、②生活、③余暇という３つの視点から支援目標を

立案するようにしているところが特徴である。

個別的教育支援計画（平成 年度～ 年度）			
本人	氏名	性別	在籍校
生年月日	年 月 日 生（歳）	前年度	学年（年）
電話番号	（ ）（ ）（ ）（ ）（ ）（ ）	障害名等	
住所	〒	手帳	身体手帳： 次（年 月交付） 療育手帳： A・B（年 月交付） 手帳
現在困っていること		将来についての希望	
本人	保護者	本人	保護者
支援の目標及び必要と思われる支援			
①（労働） ②（生活） ③（余暇） ＜年次の目標＞			
支援機関及び具体的な支援目標・内容等			
教科	担任：（年） （年） （年） 支援機関： その他	支援目標・内容	
医療	支援機関： 連絡先：	支援目標・内容	
福祉	支援機関： 連絡先：	支援目標・内容	
労働	支援機関： 連絡先：	支援目標・内容	
地域生活	支援機関： 連絡先：	支援目標・内容	
その他	支援機関： 連絡先：	支援目標・内容	
作成日 平成 年 月 日		学校長 作成担当	
支援の評価と経過			
＜年次の目標の評価＞			
支援の目標及び必要と思われる支援			
①（労働） ②（生活） ③（余暇） ＜年次の目標＞			

図1 「個別的教育支援計画」様式

また、「個別的教育支援計画」の目標立案から評価までの流れについては次の通りである。

- まず、アセスメント情報から本人と保護者の願いとして将来についての希望を把握する。
- 児童生徒が主体的に社会の中で生きていくために、①労働、②生活、③余暇という3つの視点から、3年後に達成させたい支援目標を立案する。
- 3年後に達成させたい支援目標から1年次、2年次それぞれの目標を具体的に設定する。
- さらに、支援機関における支援目標を具体的に立案する。
- 年度の初めには、保護者を含めた支援者と目標を話し合い、共有して進める。年度末には、保護者を含めた支援者と評価を行う。

これらの流れを図2に示す。

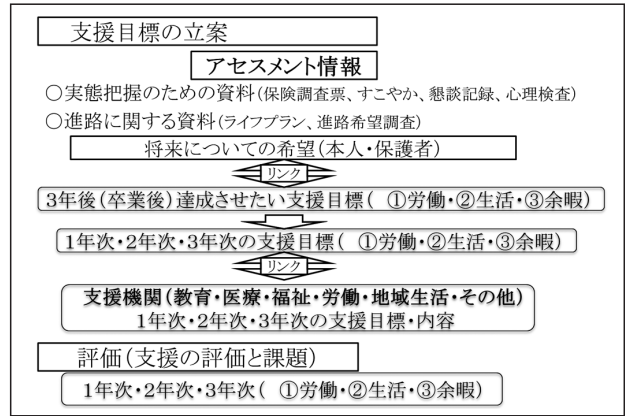


図2 個別的教育支援計画について

（3）「個別の指導計画」について

「個別的教育支援計画」の「教育」における目標を基に、各教科等の指導、各教科等を合わせた指導において、①労働②生活③余暇から下ろした目標を立案する。図3は、③余暇に関する目標が、教科の国語に下りた場合の記入例である。その評価は成績表である学習連絡簿とリンクするようになっている。

個別の指導計画				
個別的教育支援計画の「教育」における目標 （①労働・②生活・③余暇）				
教科等	目標	個への手だて	評価	引き継ぎ
国語	③簡単な物の名前を平仮名で書くことができる。	平仮名表を使って升内に書く。	「平仮名を書こう」ではできなかった。	今後は～でできるとよい。
学習連絡簿				
教科等	評価			
国語	「平仮名を書こう」では～できた。			

図3 「個別の指導計画」記入例

また、作成から評価まで、「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」を効果的そして計画的に活用していくためのタイムスケジュールを図4に示す。

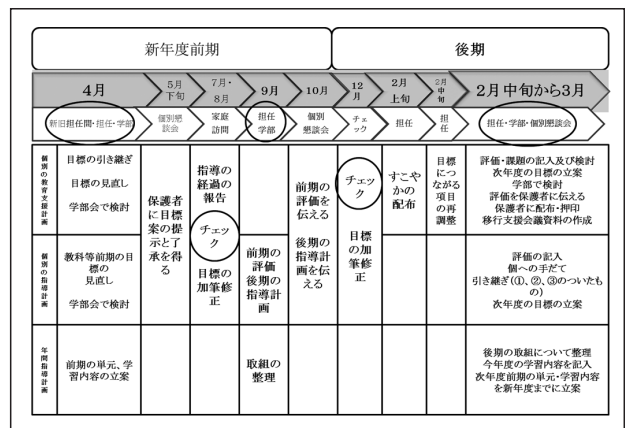


図4 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」タイムスケジュール

目標の立案時や指導経過の確認時、評価時には、教員間で全ての児童生徒について検討し、共通理解を図ることになっている。このような、計画→実践→評価→改善を繰り返し、効果的な活用へとつながっている。

Ⅲ「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」活用例 その1 ～家庭との連携～

ここで、実際に TOFU プランを活用した取組について述べる

(1) 対象生徒

高等部1年男子

(2) 実態把握から目標設定まで

対象生徒の実態を、実態の把握のための資料である「すこやか」から抜粋して示す。

表2「すこやか」＜清潔に関すること＞ 平成X年4月

1年生:4月						
年次	1 実 態	2 目 標	3 実 態	4 目 標	5 実 態	6 目 標
清 潔	○					手をきれいに洗う
		○				顔をきれいに洗う
	○					歯をきれいに磨く
		○				髪の毛を整える(くしでとく) 髪留めでとめる、ゴムで縛る
		○				鼻水が出たら鼻をかむ
	○					爪が伸びたら切る
		○				耳掃除ができる※してもらう可
	○					理美容院を利用して散髪する
		○				＜男子＞T字ひげそり・電動シェーバー)でひげをそる
		○				＜女子＞むだ毛の処理をする
		○				整髪料や洗顔フォームを使う
	○					ハンカチ、ティッシュを自分で携帯する
	○					汗の始末を自分で行う
	困っていること: 自分で髪型を床屋さんで言えるようになりたい					

表2は「すこやか」の「身の回りに関すること」に関する項目で、高等部1年生の4月(平成X年4月)に保護者が本人の実態(できている項目)と課題(目標に挙げたい項目)にそれぞれ丸印を付けた内容である。男子高校生としてひげそりなどが目標として挙げられている。

同様に、「自己管理」に関する項目を表3に示す。そこでは、お金を管理するという点に課題が挙げられている。

このように「すこやか」から挙げた実態や課題と、他の引き継ぎ資料、個別懇談会での話し合いなどから、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の目標を立案することとなる。

表3「すこやか」＜自己管理に関すること＞ 平成X年4月

1年生:4月						
年次	1 実 態	2 目 標	3 実 態	4 目 標	5 実 態	6 目 標
自 己 管 理		○				お金を管理する(貯金する・小遣い帳を付ける)
	○					時計(デジタル・アナログ)を見て行動する
						予定を立てて活動する
						メモを取る
	○					必要に応じて(携帯・固定)電話をかける
						(携帯電話・パソコン)のメールをする
						日記を付ける
						持ち物を管理する
						薬を管理し、自分で飲む
						危険なことをしたり、危険なものに近づいたりしない
困っていること: お金はあれば必ず全部使わねばと思っている。お年玉や誕生日など大きいお金をもらうとおもちゃを買う(高額)。						

前述したように、富山大学人間発達科学部附属特別支援学校では、①労働、②生活、③余暇という3つの視点で支援目標を立案している。ここでは、その3つの視点のうち、②生活、の目標についてのつながりをみることにする。

図5は、対象生徒の「個別の教育支援計画」の3年間の目標(※1)と、3年間の目標から下りた1年次の生活の目標(※2)、そしてさらに教育に下ろした目標(※3)を矢印で示したものである。「すこやか」であげられた課題(洗顔フォームでの洗顔やT字かみそりを使用したひげそり、お金の管理など)が、1年間で達成可能な具体的な目標として立案されていることが分かる。

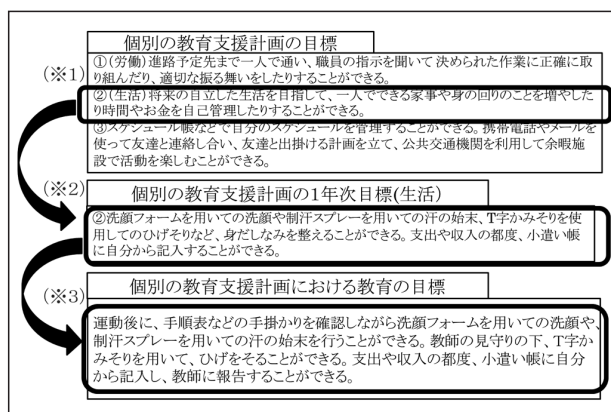


図5「個別の教育支援計画」における目標のつながり

さらに「個別の教育支援計画」の教育における目標から「個別の指導計画」の目標に下していく。

「個別の指導計画」では、「日常生活の指導」や「生活単元学習」の指導場面での目標としてより具体的に挙げられている。(図6)

個別の指導計画の目標	
日常生活の指導	
＜前期＞	
②手順表などの手掛かりを確認しながら、洗顔フォームを用いての洗顔や、制汗スプレーを用いての汗の始末、T字かみそりを用いてのひげそりなど、身だしなみを整えることができる。	
生活単元学習	
＜後期＞	
②銀行で口座を作り、お金の預金、出金の仕方やATMの使い方について知り、自分のお小遣いを貯金したり、出金したりすることができる。	

図6 「個別の指導計画」における目標

(3) 学校における授業実践

- ①期間：平成X年4月～翌年3月
- ②経過：図6にあげられた目標に対して、日常生活の指導や生活単元学習の時間にそれぞれ実践した。

目標②：手順表などの手掛かりを確認しながら、洗顔フォームを用いての洗顔や、制汗スプレーを用いての汗の始末、T字かみそりを用いてのひげそりなど、身だしなみを整えることができる

- ・学校において「日常生活の指導」にT字かみそりの使い方の学習を行った。生活お助けブック(図7)等を使って学習を進め、学校での学習内容を家庭においても生かすことができたようにした。

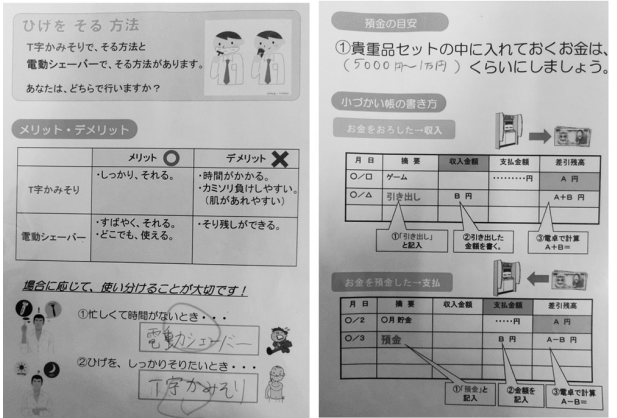
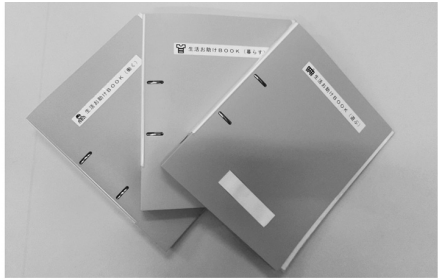


図7 「生活お助けブック」と学習プリント

		月	10	11	12	1	2	3	
教科 別 の 指 導	国語	A	伝えよう、聞いてやってみよう、様子を話そう・書こう						
		B	作文を書く、自分の考えを伝えよう、メモをとろう						
		C	メモをとろう 電話の応対 感想を伝えよう						
		D	電話の応対 大切なことをまとめよう(説明文)						
		E	調べて発表しよう 正しく伝えよう 感想を伝えよう						
		F	金銭(金種、金額の読み・多い・少ない)の読み取り						
	数学	A	金銭(金種、金額の読み・多い・少ない)の読み取り						
		B	金銭(金種、金額の読み・多い・少ない)の読み取り						
		C	金銭(おおよその値段、割引の計算、レシートの読み取り)						
		D	生活に生かせる長さ・重さ・かさ						
		E	生活に生かせる長さ・重さ・かさ						
		F	時刻表の活用 金銭(生活費・小遣い・帳・割引・割り勘						
外国語	英語を使ったゲーム								
	いろいろなソフトを利用して作成しよう(ポストカード、カレンダーなど)								
	情報モラル、情報発信								
	保健体育	保健	健康と生活習慣			病気の予防			
	体育	球技(キックベースボール、サッカー、バスケットボール)			器械運動、創作ダンス				
	芸術	音楽	歌詞の内容や曲想などを味わいながら歌おう			楽器の特色や音色を生かして合奏しよう			
美術	音楽に合わせて身体表現やダンスをしよう			音楽の美しさを味わって聴こう					
各教科等を 合わせた指導	作業学習	木工	製品製作② (ミニ門松)			製品製作③ (デザインを考えて、キーホルダー・コースター、 など)			
		清掃	ビル清掃を想定した清掃作業Ⅱ チームでの清掃作業 (机や椅子のセッティングを含む)			ビル清掃を想定した清掃作業Ⅲ チームでのワックス掛け作業 (ポリッシャー掛け、バキュームクリーナー掛け 等			
		縫製	製品製作① (コースター・ランチョンマット・小物入れなど) (刺し子の模倣付け・しつけ・ミシン・アイロン)			製品製作② (布バッグ・ペットボトルホルダーなど) (しつけ・ミシン・アイロン・縫い)			
		ハウスキー	分担された作業に取り組みよう			シフト表で確認して、一連の自分の作業を行おう			
		就業体験	秋就業体験			冬就業体験(高)			
		生活単元学習	1年	金銭の管理をしよう① (口座開設、銀行の利用)			今年の「す」を振り返ろう		
	生活単元学習	2年	(昼食・弁当作り)			今年「す」を振り返ろう			
		3年	秋就業体験について考えよう・振り返ろう			今年「す」を振り返ろう			
		日常生活の指導	健康管理と安全、予定の管理、移動(仕事チャレンジ、係チャレンジ、運動チャレンジ、マイチャレンジ、 (自分自身に関する事、他の人との関わりに関する事、自然や崇高なものに関わる事、集団や社会との関わりに関する事)						
	領域別 の指導	学校行事	学習発表会			卒業証書			
		特別活動	チャレンジ発表会			卒業を祝う			
		18活動	個人及び社会の一員としての在り方生き方、学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定			卒業を祝う			
委員会		委員会			卒業を祝う				
総合的な 学習の時間	自立活動	健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体への働きかけ、コミュニケーション							
	1年	学習発表会を成功させよう			卒業を祝う				
	2年	テーマを決めて調べよう、発表しよう (防災・消費生活の危険・インターネット)			卒業を祝う				
総合的な 学習の時間	3年	卒業後の働く、暮らす、遊ぶについて考えよう② (雇用・転職・高齢化等社会・関係機関の活用)			卒業を祝う				

図8 年間指導計画

目標②：銀行で口座を作り、お金の預金、出金の仕方やATMの使い方について知り、自分のお小遣いを貯金したり、出金したりすることができる

- ・「生活単元学習」の時間に金銭管理や銀行で実際に通帳を作る学習を行った。図8の年間指導計画に示す通り、この学習は生活単元学習の年間指導計画にも位置付けている。(図8太枠内)
- ・生活お助けブック(図7)等を使って学習を進め、学校での学習内容を家庭においても生かすことができたようにした。

(4) 保護者との連携による家庭での実践

学校の学習で使用した『生活お助けブック』(図7)を家庭に持ち帰り活用した。学校での実践を受けて本人が家庭でも自分で理解して使用し、家庭での実践につながった。加えて、保護者が学習の意味を理解し、本人に対する支援を行う有効な手段となった。

(5) 評価と次年度の目標設定

1年間の実践をうけて、年度末には保護者と一緒に評価を行い、「個別の教育支援計画」の評価と課題は次のように記入された。

評価と課題：洗顔フォームを用いての洗顔や汗拭きシートや制汗スプレーを用いての汗の始末、T字かみそりを使用してのひげそりなど、身だしなみを整えることができた。身だしなみを整えるためには、歯ブラシやT字かみそりを定期的に交換する必要性に気付き、チャレンジ給料で購入して交換することもできた。

今後は、破れや汚れなど、下着や靴下などの身だしなみにも気を遣い、自分で購入することも含めて支援を行うとよい。

評価と課題：金銭の管理では、お金の大切さが分かり、収入や支出の都度、小遣い帳に記入したり、何か欲しいものができたときのことを考えて、無駄遣いせずに貯金したりすることができた。今年度、授業において通帳を作り、ATMを操作してチャレンジ給料やお年玉の預金や出金を行った。(省略)

このことから、「個別の教育支援計画」の1年次に挙げた目標が達成したといえる。また、評価とともに、次の課題（新しい下着や靴下の買い替えについて）についても新たにあげられた。

平成X+1年4月時点の「すこやか」を表4に示す。1年前に目標に挙げていたT字かみそりを使ったひげそりや、洗顔フォームを使った洗顔に丸印がつき、できることが増えたことが分かる。

表4「すこやか」＜清潔に関すること＞ 平成X+1年4月

2年生:4月						
年次	1		2		3	
	実態	目標	実態	目標	実態	目標
清潔	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
	○	○				
困っていること:自分で髪型を床屋さんで言えるようになりたい 歯磨きが難						

お金の管理についても同様の結果となっている。

(表5)

表5「すこやか」＜自己管理に関すること＞ 平成X+1年4月

年次	1		2		3		項目
	実態	目標	実態	目標	実態	目標	
自己管理	○	○					お金を管理する(貯金する)小遣い帳を付ける
	○	○					時計(デジタル)アナログを見て行動する
		○					予定を立てて活動する
		○					メモを取る
	○	○					必要に応じて(携帯・固定)電話をかける
			○				{携帯電話・パソコン}のメールをする
			○				日記を付ける
			○				持ち物を管理する
			○				薬を管理し、自分で飲む
			○				危険なことをしたり、危険なものに近づいたりしない
困っていること:お金はあれば必ず全部使わねばと思っている。お年玉や誕生日など大きいお金をもらうとおもちゃを買う(高額)。							

これらの評価と課題をもとに、次年度の目標設定を行うことになる。

対象生徒の次年度の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の目標を図9に示す。1年次の「個別の教育支援計画」で挙げられた課題（下着や靴下の買い替えについて）や「すこやか」で挙げられた新しい課題が2年次の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の目標となっていることが分かる。

2年次の目標	
個別の教育支援計画の目標(生活)	
②下着や靴下などの状態を確認し、必要に応じてチャレンジ給料で買い替えることができる。調理に必要な材料などを確認し、賞味期限の表示やエコバックに買った商品を入れる際のポイントに気を付けながら、スーパーやコンビニでの買い物をすることができる。	
個別の教育支援計画の教育における目標(生活)	
②下着や靴下などの状態を確認し、教師のアドバイスを受けて、チャレンジ給料で買い替えることができる。調理に必要な材料などを確認し、賞味期限の表示や買った商品を入る際のポイントなどに気を付けながら、学校近くのスーパーやコンビニで買い物をすることができる。	
個別の指導計画	
生活単元学習 (前期)②賞味期限や内容量などの表示を確認しながら、調理に必要な材料をスーパーやコンビニで買うことができる。買った材料の重さや傷みやサイズなどを意識して、エコバックに詰めることができる。 (後期)②靴下や下着などの買い換えの目安を知り、自分の体のサイズや好みに合った靴下や下着を予算以内で購入することができる。	

図9 次年度の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の目標

IV「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」活用例その2 ～外部との連携～

他機関とも同様に連携を図ることができる。外部の専門家や医療機関、福祉機関との連携について、「個別の教育支援計画」に挙げられた目標例を図10, 11, 12に示す。

これらの目標は前述の「TOFUプラン」の「B 実

個別的教育支援計画（平成 年度～ 年度）			
本人	ふりがな		性別
	氏名		
	生年月日		
	電 話		
保護者	氏名		
	住 所		
(緊急電話)			
現在困っていること		将来についての希望	
本人		保護者	
支援の目標 及び 必要と思われる 支援 ①（労働） ②（生活） ③（余暇） 1人または家族と一緒にストレッチなどの運動に取り組むことができる。 <1年次の目標> ①（労働） ②（生活） ③（余暇） 1人または家族と一緒に、ストレッチボールや iPad などの道具を自分で準備し、ストレッチ運動に取り組むことができる。			
支援機関及び具体的な支援目標・内容等			
教 育	在籍校	担任：(年) (年) (年) 連絡先：	支援目標・内容 ①（労働） ②（生活） ③（余暇） 教師と一緒にストレッチを行うことができる。
	医療	支援機関； 連絡先；	支援目標・内容
福祉	支援機関； 連絡先；	支援目標・内容	
労働	支援機関； 連絡先；	支援目標・内容	
地域生活	支援機関；家庭（保護者） 連絡先；	支援目標・内容 ①（労働） ②（生活） ③（余暇） 保護者に依頼をしてストレッチをしたり、自分で iPad で運動をすることができる。	
その他	支援機関； 連絡先；	支援目標・内容	
作成日 平成 年 月 日		学校長 作成担当	
支援の評価と課題		<1年次の目標の評価> ①（労働） ②（生活） ③（余暇）	

図10 外部の専門家（理学療法士）との連携

態把握のための資料」として挙げた「すこやか」や「保健調査票」「保護者との懇談」などをもとにして設定された目標である。

（1）理学療法士との連携

「TOFUプラン」の「すこやか」と「保護者との懇談」から、身体の動かし方や姿勢に課題がみられた生徒は、「個別的教育支援計画」の「③余暇」の目標として「一人又は家族と一緒にストレッチなどの運動に取り組むことができる」目標が設定された。学校においては「教師と一緒にストレッチを行うことができる」、家庭では「保護者に依頼をしてストレッチをしたり、一人で iPad で運動をしたりすることができる」という目標がそれぞれ挙げられた。この「個別的教育支援計画」の目標を受けて「個別の指導計画」では、日常生活の指導として「教師に身体の一部を支えてもらいながら、毎朝10分間のストレッチ運動を行うことができる」の目標を設定した。具体的な体の動かし方やストレッチ運動の方法については、外部の専門家である理学療法士の

個別的教育支援計画（平成 年度～ 年度）			
本人	ふりがな		性別
	氏名		
	生年月日		
	電 話		
保護者	氏名		
	住 所		
(緊急電話)			
現在困っていること		将来についての希望	
本人		保護者	
支援の目標 及び 必要と思われる 支援 ①（労働） ②（生活） 落ち着いて病院で受診することができる。 ③（余暇） <1年次の目標> ①（労働） ②（生活） 病院では、落ち着いて待合室で待ったり予防接種を受けることができる。			
支援機関及び具体的な支援目標・内容等			
教 育	在籍校	担任：(年) (年) (年) 連絡先；	支援目標・内容 ①（労働） ②（生活） 指示を聞き、静かに待ったり模擬注射を受けたりして、予防接種の練習をすることができる。 ③（余暇）
	医療	支援機関；〇〇医院（〇〇科） 連絡先；	支援目標・内容 ②（生活） 約束ブックを手掛かりに、落ち着いて待合室で待ったり予防接種を受けたりすることができる。
福祉	支援機関； 連絡先；	支援目標・内容	
労働	支援機関； 連絡先；	支援目標・内容	
地域生活	支援機関；家庭（保護者） 連絡先；	支援目標・内容 ①（労働） ②（生活） 約束ブックで約束を守ることができる。 ③（余暇）	
その他	支援機関； 連絡先；	支援目標・内容	
作成日 平成 年 月 日		学校長 作成担当	
支援の評価と課題		<1年次の目標の評価> ①（労働） ②（生活） 受診について、かかりつけの病院では、話を聞いて2回予防接種を受けることができた。定期的な歯科受診は一人できた。今後は、 ③（余暇）	

図11 医療機関との連携

指導とアドバイスを受けて教育活動に活かした。理学療法士からのアドバイスを受けて教師と一緒にストレッチ運動に取り組む様子を図13に示す。

理学療法士から受けたアドバイスは保護者に伝え、家庭での実践にもつながるようにした。

理学療法士との連携は年間2～3回の来校を依頼し、定期的にアドバイスを受けるなど連携の機会を設定した。

図10は目標のみを示したものであるが、「TOFUプラン」の「すこやか」と「保護者との懇談」から挙げられた課題を「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」の目標として設定し、学校・家庭・理学療法士が連携することで、生徒の学校や家庭での活動として定着するなどの成果が得られた。

（2）医療機関との連携

「TOFUプラン」の「保健調査票」と「すこやか」から医療機関受診に課題がみられた児童は、「個別的教育支援計画」の「②生活」の目標として「病院

個別の教育支援計画（平成 年度～ 年度）			
本人	ふりがな		性別
	氏名		
保護者	生年月日		在籍校
	電話番号		富山大学人間発達科学部 附属特別支援学校 小学部 4年 ～ 6年
保護者	住所		障害名等
	(緊急電話)		手帳
現在困っていること		将来についての希望	
本人	保護者	本人	保護者
支援の目標 及び 必要と思われる支援 ① (労働) ② (生活) ③ (余暇) 保護者と一緒に、マナーや約束を守って公共施設（商業施設や余暇施設など）や公共交通機関を利用することができる。 < 1年次の目標 > ① (労働) ② (生活) ③ (余暇) 約束やマナーを守って、余暇施設やデイサービスを利用することができる。			
支援機関及び具体的な支援目標・内容等			
教育	担任：(年) (年) 連絡先：	支援目標・内容 ① (労働) ② (生活) ③ (余暇) 余暇施設や電車やバスなどの公共交通機関の利用の仕方を知り、マナー手帳を見て約束やマナーを守って活動することができる。	
医療	支援機関： 連絡先：	支援目標・内容	
福祉	支援機関：〇〇〇〇児童デイサービス 連絡先：	支援目標・内容 ③ (余暇) 約束やマナーを守って、デイサービスを利用することができる。	
労働	支援機関： 連絡先：	支援目標・内容	
地域生活	支援機関：家庭（保護者） 連絡先：	支援目標・内容 ① (労働) ② (生活) ③ (余暇) デイサービスでの過ごし方を約束したり、マナー手帳と一緒に確認したりすることができる。	
その他	支援機関： 連絡先：	支援目標・内容	
作成日 平成 年 月 日 学校長 作成担当			
支援の評価と課題 < 1年次の目標の評価 > ① (労働) ② (生活) ③ (余暇)			

図12 児童デイサービスとの連携



図13 理学療法士のアドバイスを受けて、教師と一緒にストレッチに取り組む様子

では落ち着いて待合室で待ったり予防注射を受けたりすることができる」目標が設定された。学校においては「指示を聞き、静かに待ったり模擬注射を受けたりして、予防注射の練習をすることができる」、家庭では「約束ブックで約束を守ることができる」という目標がそれぞれ挙げられた。また、医療機関

と連携して取り組む必要から医療機関において「約束ブックを手がかりに落ち着いて待合室で待ったり予防接種を受けたりすることができる」という目標も挙げられた。「個別の教育支援計画」のこれらの目標を受けて「個別の指導計画」では、自立活動の指導として「10数える間、約束ブックを見ながら椅子に座り、医者に扮した教師に腕を差し出し続けることができる」の目標を設定した。学校場面では担任や養護教諭と一緒に模擬の待合室にて一定時間を過ごしたり、保健室にて白衣を着用して医者に扮した教師の模擬診察を受けたりする学習を行った。その様子を家庭と医療機関に伝え、約束ブックを使用すれば待合室で待つことや受診ができることを示し、保護者自身が家庭や医療機関などの実際の場面での活用につなげた。

医療機関との連携では、児童の実態や、学校や家庭における実践内容と本人の様子、効果的な方法を伝え、協力依頼を行いながらすすめた。

図11は目標と評価のみを簡単に示したものであるが、「TOFUプラン」の「保健調査票」と「すこやか」から挙げられた課題を「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の目標として設定し、学校・家庭・医療機関が連携することで、児童が予防注射を受けることや定期的な受診ができるようになるという成果が得られた。

（3）デイサービス機関との連携

「TOFUプラン」の「すこやか」と「保護者との懇談」からデイサービス機関における友達との関わりに課題がみられた児童は、「個別の教育支援計画」の「③余暇」の目標として「約束やマナーを守って余暇施設やデイサービスを利用することができる」目標が設定された。学校においては「余暇施設や公共交通機関の利用の仕方を知り、マナー手帳を見て、約束やマナーを守って活動することができる」、家庭では「デイサービスでの過ごし方を約束したり、マナー手帳と一緒に確認したりすることができる」という目標がそれぞれ挙げられた。また、デイサービス機関と連携して取り組む必要からデイサービス機関において「約束やマナーを守ってデイサービスを利用することができる」という目標も挙げられた。「個別の教育支援計画」のこれらの目標を受けて「個別の指導計画」では、生活単元学習の指導として「友達との優しい話し方や遊び方をマナー手帳に

記入し、必要なときにマナー手帳を見ながら、マナーを守って活動することができる」の目標を設定した。学校場面では、校外学習の事前学習を通して公共施設の利用の仕方やマナーについての学習を行った。また、学習した内容をマナー手帳に記入し、校外学習当日や日常の学校生活場面でも活用した。その様子を保護者とデイサービス機関の担当者に伝え、マナー手帳を示して事前の約束をすることの大切さや、事前の約束をすることでマナーを守ることができる実態を伝えて、実践につなげた。

デイサービス機関との連携では、児童の実態や、学校や家庭における実践内容と本人の様子、効果的な方法を伝えながらすすめた。

図12は目標のみを示したものであるが、「TOFUプラン」の「すこやか」と「保護者との懇談」から挙げられた課題を「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の目標として設定し、学校で使用しているマナー手帳を保護者とデイサービス機関の担当者も使用するなど、学校・家庭・デイサービス機関が連携することで、児童が友達と仲良くする約束を守って利用することができるようになる成果が得られた。

これらの他にも、「①労働」の目標に対しては、学校と家庭、そして福祉機関や労働機関と連携して取り組んでいる。

V まとめ

対象校である富山大学人間発達科学部附属特別支援学校では、TOFUプランを活用することで一人一人のニーズに対応した「個別の教育支援計画」を作成し、「個別の指導計画」の目標へとつなげている。「アセスメント→目標設定→実践→評価」の流れや具体的な実際の記入例を示したマニュアル的な内容であるTOFUプランの存在と活用の効果であると考えている。この流れに沿って行うことで、適切な目標が設定され、効果的な実践を経て、学校や家庭などでの生徒の変容につながったと考える。

また、TOFUプランを活用することで、目標立案及び評価にあたって、教員間の共通理解を図ることができ、目標から下りた学習活動及び適正な評価を行うことができた。加えて、保護者や他機関の支援者との共通理解も図ることができた。

今後は、効果的な活用につながる「アセスメント→目標設定→実践→評価→改善」の流れと、関係機

関による支援会議を含む効果的な連携と連携システムを構築し、地域における特別支援教育体制の在り方を発信していくことが求められる。

そして、キャリア教育を支えるために活用したり連携したりするためには、本人のニーズや「望む姿」を把握して「個別の教育支援計画」に反映していく教育者の姿勢と資質を高めることも今後の課題であると考えている。

引用文献

- 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校著(2015)「富大附特プラン」の手引き～TOFU～
栗林睦美(2015) 富山県特別支援教育研究会提案資料集. 32-42
文部科学省(2007)「特別支援教育の推進について」
文部科学省(2014)「平成25年度特別支援教育体制整備等状況調査について」
加瀬進(2014) 近年の「個別の支援計画」をめぐる実践・研究・政策の動向と課題,東京学芸大学紀要. 65. 157-164.
絹見睦美・寺川志奈子(2012) 特別支援学校における「個別の教育支援計画」の有効活用-保護者への質問紙調査より-, 鳥取大学地域学部紀要. 9. 25-47.
小坂みゆき・姉崎弘(2011) 小学校における「個別の教育支援計画」及び『個別の指導計画』の作成・策定と活用-有機的な支援の連携をめざして-三重大学教育学部研究紀要. 62. 153-159.
山口由美(2014) 本校における「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」のモデルチェンジ-関係機関との連携ツールとしての活用に向けて-, 弘前大学教育学部紀要. 67-70.

(2015年5月20日受付)

(2015年7月13日受理)

※資料1

すこやか

(一部抜粋)

【記録した日】

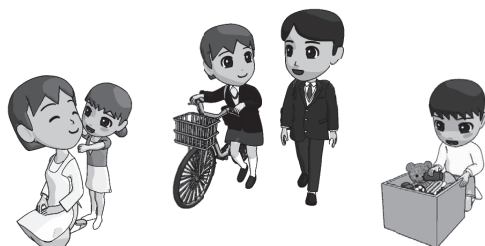
第1回目 学年 平成 年 月

第2回目 学年 平成 年 月

第3回目 学年 平成 年 月

【記入の仕方】

- 1冊で3年間使用します。
- 1年目は黒、2年目は赤、3年目は青で記入して下さい。
- 小学部1年と4年、中学部1年、高等部1年は、新規に記入して頂きます。
- 記入に関して分からない点や気づかれた点があれば、担任にお伝え下さい。



児童生徒氏名

本人の状態

名 前		愛 称	
障害の簡単な説明			
好き・興味のあること			
嫌い・苦手なこと			
趣味・特技			
こだわり・癖			
つらい状態・パニック			
主なコミュニケーションの取り方・伝え方のポイント			
その他（学校に伝えておきたいこと）			

地域生活地図

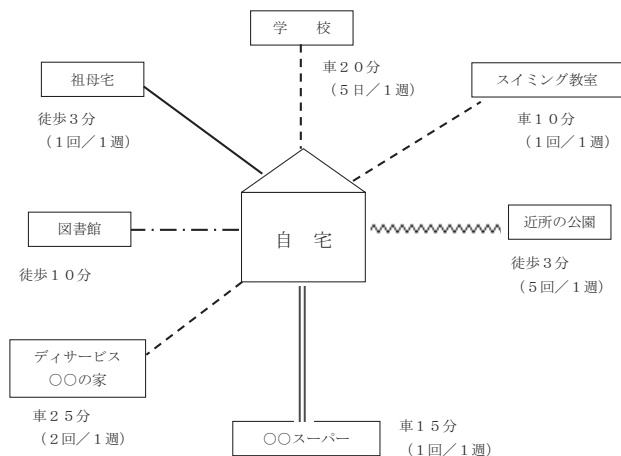
(記入例)

お子さんがこの2～3週の間に出かけたところを書き込んでください。
また、頻度や移動方法なども書き込んでください。

一人で
 兄弟姉妹と一緒に
 大人と一緒に
 友達と一緒に
 利用したいと思っている

そして、お子さんが生活している地域社会の中で、今後利用できそうな施設や同年齢の子供たちが利用している施設をいろいろと探してみましょう。

【記録した日】 学年 平成 年 月 (黒)
 学年 平成 年 月 (赤)
 学年 平成 年 月 (青)



地域生活地図

(記入例)

お子さんがこの2～3週の間に出かけたところを書き込んでください。
また、頻度や移動方法なども書き込んでください。

一人で
 兄弟姉妹と一緒に
 大人と一緒に
 友達と一緒に
 利用したいと思っている

そして、お子さんが生活している地域社会の中で、今後利用できそうな施設や同年齢の子供たちが利用している施設をいろいろと探してみましょう。

【記録した日】 学年 平成 年 月 (黒)
 学年 平成 年 月 (赤)
 学年 平成 年 月 (青)



生活スケジュール

(記入例)

日常生活の日課（平日）			
時間	活動	現在の状態（援助の度合い）	今後の希望
6:00			
7:00	起床	父・母が起こす。	目覚ましなどを使って自分で起きてほしい。
7:00	洗面・朝食・着脱	主に母がついて行う。	自分で登校の準備をスムーズにできるようにしてほしい。
8:00	登校	母が送迎する。	
8:30	学校到着		
14:45	学校迎え		
15:30	買い物・帰宅・おやつ		
16:00	友達と遊ぶ	5時までには帰宅するように声をかけている。	
17:00	宿題・テレビ・お手伝い	一人で過ごすことが多い。	
18:00	お風呂・テレビ		
19:00	夕食		
20:00	着替え・テレビ		
21:00	就寝	眠くなったら自分で布団に行く。なかなか寝つかないときもある。	

日常生活の日課（休日）			
時間	活動	現在の状態（援助の度合い）	今後の希望
5:00			
8:00	起床	休日はやや起きるのが遅い。	
8:00	洗面・朝食・着脱	一人で行う。	
9:00	遊ぶ（ゲーム・テレビ・犬の散歩・読書など）	一人で、または姉と遊んでいる。	
11:00	買い物に行くこともある。		
12:00	昼食		
13:00	遊ぶ（テレビ・ゲームなど）	午後からは友達が来たり、友達の家に行ったりすることもある。	
17:00	宿題・テレビ・お手伝い	一人で過ごすことが多い。	
18:00	お風呂・テレビ		
19:00	夕食		
20:00	着替え・テレビ		
21:00	就寝	眠くなったら自分で布団に行く。なかなか寝つかないときもある。	

保護者がとらえる現在の状況と

年間目標としたい項目（全学部共通）

○「実績」「目標」について、1年次は「黒」、2年次は「赤」、3年次は「青」のペンで記入して下さい。
○「目標」としたいことは、各項目2つまで記入して下さい。

<身の回りに関すること>

年次	1	2	3	項目
実態	目標	実態	目標	実態
食				スプーンを使って食事をする
				箸を上手に使う食事をする
				好き嫌いをなく食事をする
				マナーを守って食事をする
				口のまわりや手を汚さずに食事をする
				時間内に食べる（具体的に： ）
				好きな食べ物（ ）
				嫌いな食べ物（ ）
				困っていること：

排 せ つ							おむつを利用することがある
							自分でトイレに行く
							尿意や便意を訴え〔一人で・大人と一緒に〕トイレに行く
							言葉掛けで〔一人で・大人と一緒に〕トイレに行く
							衣服を汚さずに排せつをする
							〈男子〉ズボンを膝まで下げずに排尿をする
							〈男子〉洋式トイレで汚さず排尿をする
							排尿後、〔手助けで・自分で〕身繕いをする
							排便後、〔手助けで・自分で〕紙で拭いて身繕いをする
							排せつ後、手洗いをする
						〈女子〉生理の手当をする	
						困っていること：	

身の回り

年次	1	2	3	項目
	実態	目標	実態	目標
着				脱いだ衣服をたたんだり、ハンガーにかけたりする
				かぶり服を一人で着脱する
				ゴムの入ったズボンを一人で着脱する
				ファスナーの留め外しをする
				ボタンの留め外しをする
				ホックの留め外しをする
				制服を一人で着脱する
				靴を立った姿勢で脱ぎ履きする
				靴のひもを自分で結ぶ
				靴下のかかとを合わせて脱ぎ履きする
替				服の前後が分かる
				服の裏表が分かる
え				ベルトの留め外しをする
				裾や襟の始末をする
				まわりから見られて恥ずかしい着替えの仕方をする
				季節、気温にあわせた服装を調節する
困っていること：				

年次	1	2	3	項目
実態	目標	実態	目標	実態
入				家族と一緒に入浴する（誰と： ）
				一人で入浴する
				一人で体を洗う
				顔からお湯をかぶる
				一人で洗髪をする
				入浴のマナーを理解している 例：事前のトイレ、かけ湯など
				入浴後は自分で体を拭いて衣服を着る
				マナーを守って公衆浴場を利用する
				困っていること：

身の回り

年次	1		2		3		項目 ()内の当てはまるものに○をつけてください。
	実施	目標	実施	目標	実施	目標	
清潔							手をきれいに洗う
							顔をきれいに洗う
							歯をきれいに磨く
							髪の毛を整える〔くしでとく・髪止めでとめる・ゴムで縛る〕
							鼻水が出たら鼻をかむ
							爪が伸びたら切る
							耳掃除ができる ※してもらうも可
							理美容院を利用して散髪をする
							〈男子〉〔T字ひげそり・電動シェーバー〕でひげをそる
							〈女子〉むだ毛の処理をする
健康							整髪料や洗顔フォームを使う
							ハンカチ、ティッシュを自分で携帯する
							汗の始末を自分で行う
困っていること：							

健康							ケガをしたら知らせる
							体調が悪いときには知らせる
							簡単なけがの手当をする
							内科で受診することができる
							歯科で受診することができる
							耳鼻科で受診することができる
							肥満にならないように食事などに気を付ける
							人前で性器をさわらない
上記以外の受診可能な医療機関 ()							
受診困難な医療機関 ()							
困っていること：							

身の回り

＜余暇に関すること＞

年次	1		2		3		項目
	実施	目標	実施	目標	実施	目標	
余暇							おもちゃなどで一人で遊ぶ
							兄弟と一緒に遊ぶ
							友達と遊ぶ
							楽器を弾く
							絵を描く
							工作をしたり模型を作ったりする
							本・雑誌・マンガを読む
							手芸をする
							ペットを飼う 例：金魚の水換え、犬の散歩など
							植物の世話をする
余暇							CDやテープで音楽を聴く
							パソコンを使う 例：メール、インターネットの利用など
							新聞を読む
							写真を撮る
							花を生ける
							手紙を書く
							散歩をする
							ジョギングをする
							ダンス・エアロビクスをする
							何かを収集する ()
その他の余暇活動 ()							
困っていること：							

余暇

年次	1		2		3		項目 ()内の記入してください。
	実施	目標	実施	目標	実施	目標	
公共施設							体育館を利用する ()
							プールを利用する ()
							図書館を利用する ()
							児童館を利用する ()
							郵便局を利用する ()
							銀行を利用する ()
							スーパーを利用する ()
							コンビニを利用する ()
							ファストフード店を利用する ()
							レストランを利用する ()
の利							映画館を利用する ()
							ゲームセンターを利用する ()
							カラオケ店を利用する ()
							ボウリング場を利用する ()
							レンタルビデオ店を利用する ()
							バスを利用する ()
							電車を利用する ()
							タクシーを利用する ()
							時刻表で時刻を調べる
							行き先までの運賃が分かる
利用							療育手帳を使用する 例：運賃、入場料など
							交通ルールを守る
上記以外で利用できる公共施設 ()							
困っていること：							

余暇

＜手伝い・作業に関すること＞

年次	1		2		3		項目
	実施	目標	実施	目標	実施	目標	
調理・調理準備・片付け							包丁で切る
							ガスを扱う
							I Hヒーターを扱う
							オーブントースターを扱う
							電子レンジを扱う
							盛りつけをする
							一人で簡単な調理をする
							食器を並べる
							食器を洗う
							食器を拭く
掃除・洗濯							食器を片付ける
							台拭きをする
							使った調理器具を片付ける
困っていること：							

掃除・洗濯							掃除機をかける
							雑巾などで拭き掃除をする
							部屋の片付けをする
							トイレ掃除をする
							風呂の掃除をする
							玄関掃除をする
							()の掃除をする
							ゴミ集めをする
							ゴミの分別をする
							ゴミ出しをする
手伝い・作業							洗濯機を使って洗濯をする
							洗濯物を干す
							洗濯物をたたむ
							洗濯物を収納する
							アイロンをかける
困っていること：							

手伝い・作業

特別支援学校における「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用に関する一考察

年次	1		2		3		項 目
	実施	目標	実施	目標	実施	目標	
買 い 物							大人と一緒に店に行き、買い物の手伝いをする 例:「カードを押す」
							大人と一緒に店に行き、店内で頼まれたものを買ってくる
							家から一人で店に行き、頼まれたものを買ってくる
							自分で必要なものを判断し、一人で店に行って買ってくる
	困っていること:						

[illegible]

道 具 の 扱 い							はさみを使って紙を切る
							のりを使って紙をはりあわせる
							セロテープを使って紙をはりあわせる
							カッターなどの刃物を注意して扱う
							かなづちやドライバーなどを使う
							並縫いをする
							ボタンつけをする
							ミシンで直線縫いをする
							ナイフや包丁で果物の皮むきをする
							ちょう結びでひもを結ぶ
						エプロンをのひもを後ろでちょう結びをする	
						定規を使って線を引く	
	困っていること：						

手伝い・作業

＜コミュニケーションに関すること＞

	1	2	3	項目	目	
水	実施	目標	実施	目標	実施	目標
					「 」内の当てはまるものに○をつけてください。	
					名前を呼ばれたら返事をする	
					自分の名前を言う	
					自分の要求を〔指さし・身振り・言葉〕で伝える	
コ					困ったときに援助を〔指さし・身振り・言葉〕で求める	
					肩をたたくなどの動作で相手に注意を促す	
					「ねえ」「～さん」などの言葉で相手に注意を促す	
ミ					わからないことを〔指さし・身振り・言葉〕で尋ねる	
					「これはなんですか」という質問に〔言葉で・選択肢の中から〕答える	
ユ					「どこへ行ってきたの」という質問に〔言葉で・選択肢の中から〕答える	
					「いつ行ってきたの」という質問に〔言葉で・選択肢の中から〕答える	
ニ					「だれと行ってきたの」という質問に〔言葉で・選択肢の中から〕答える	
					「何をしてきたの」という質問に〔言葉で・選択肢の中から〕答える	
ケ					「どうして」という質問に〔言葉で・選択肢の中から〕答える	
					日常のあいさつをする	
シ					伝言をきちんと伝える	
					身近なできごとについて説明する	
ロ					感情を言葉で表現する 例：「悲しい」「うれしい」など	
					電話で簡単な応対をする	
ン					指示に従って行動する	
					場に応じた言葉遣いをする	
<特記事項>						
その他のコミュニケーション手段 例：「コミュニケーション機器」「カード」「ハンドサイン」 など ()						
伝え方のポイント						
困っていること：						

コミュニケーション・人間関係の形成

＜人間関係の形成に関すること＞

年次	1		2		3		項目
	実施	目標	実施	目標	実施	目標	
自己統制							() 内の当てはまるものに○をつけてください。
							「あとで」「あした」と言われたときに待つ
							自分のものを人のものを区別して使う
							欲しいものがあっても我慢する ※「我慢すればできる」も可
							留守番をする
							乗り物や大勢の中で落ち着いて行動する
							しばらくの間座って待つ
							1時間くらい一人で留守番する
							決められた時間になれば自分で寝る
							他人の家に行って行儀よくしている
統制							人の話を終わりで静かに聞く
							相手が困っていることや無理な要求をしない
							幼児や老人をいたわる
							注意を素直に受け入れる
							情緒が安定している
							<特記事項>
							問題行動：どんなとき ()
							どうなる ()
							その対処法 ()

自己管理							お金を管理する〔貯金をする・小遣い帳をつける〕
							時計〔デジタル・アナログ〕を見て行動する
							予定を立てて活動する
							メモを取る
							必要に応じて〔携帯・固定〕電話をかける
							〔携帯電話・パソコン〕のメールをする
							日記を付ける
							持ち物を管理する
							薬を管理し、自分で飲む
							危険なことをしたり、危険なものに近づいたりしない
	困っていること：						

コミュニケーション・人間関係の形成

年次	1	2	3	項 目
	実施	目標	実施	目標
集 団 参 加				大人や友達の間で遊ぶ
				他の子どもが遊ぶ中で一人で遊ぶ
				誘われて大人や友達と一緒に遊ぶ
				自分から友達と一緒に遊ぶ
				近所の友達と遊ぶ
				玩具などを順番に使う、貸し借りする
				順番を守って、玩具を利用する
				ごっこ遊びをする
				ジャンケンやゲームの勝敗が分かる
				友達や家族と簡単な室内ゲームをする 例：「お棋盤」「トランプ」
加				簡単な集団遊びに参加する 例：「キャッチボール」「風船バレー」
				簡単なルールの集団遊びに参加する 例：「鬼ごっこ」「ドッジボール」
				地域の集まりに参加する (誰と：)
				友達と計画して出かける
困っていること：				

その他目標としたいこと

年	年	年

コミュニケーション・人間関係の形成

※資料2

ライフプラン（高等部卒業後の生活）（小学部）

漠然としたものでも良いので、今考えておられる将来の生活の様子をご記入ください。
（1年目－黒ペン、2年目－赤ペン、3年目－青ペンで記入下さい。）

将来、希望する姿

	進路	余暇	生活
卒業後、希望する姿			

連携していきたい地域資源

	現在	将来
教育		
医療		
福祉		
労働		
地域		

※資料3

進路希望調査（小学部・中学部）

進路希望調査は、小学部4年生以上の方に記入して頂きます。卒業後の進路希望をご記入ください。別紙の「過去6年間の高等部卒業生進路状況」「県内の主な施設、作業所」の資料を参考にしてください。

所属学部卒業後の進路

第1希望	希望先名(具体的に)（例　〇〇養護学校△△部、□□学校△△科など）
	理由

高等部卒業後の進路

・具体的なご希望がある場合は、希望される企業名等をご記入ください。

第1希望	希望先　いづれかに○をつけてください。 企業就労・作業所就労・施設入所・その他（ （具体的に）（例　会社名、作業所名、施設名もしくは職種）
	理由
第2希望	希望先　いづれかに○をつけてください。 企業就労・作業所就労・施設入所・その他（ （具体的に）（例　会社名、作業所名、施設名もしくは職種）
	理由

進路や将来のことについて相談したいことがあればご記入ください。

ライフプラン（高等部卒業後の生活）（中・高）

漠然としたものでも良いので、今考えておられる将来の生活の様子をご記入ください。
（1年目－黒ペン、2年目－赤ペン、3年目－青ペンで記入下さい。）

高等部卒業後の希望する姿

	進路	余暇	生活
3年	本人		
	保護者		
20年	本人		
	保護者		

連携していきたい地域資源

	現在	将来
教育		
医療		
福祉		
労働		
地域		

進路希望調査（高等部1、2年3月）

進路希望調査は、小学部4年生以上の方に記入して頂きます。卒業後の進路希望を具体的に記入してください。別紙の「過去6年間の高等部卒業生進路状況」「県内の主な施設、作業所」の資料を参考にしてください。

平成____年____月

所属学部卒業後の進路

第1希望	希望先名(具体的に)（例　会社名、作業所名、施設名もしくは職種）
	理由
第2希望	希望先名(具体的に)（例　会社名、作業所名、施設名もしくは職種）
	理由

希望する春季就業体験先

・希望する職種や会社名、施設名等を具体的に記入してください。

第1希望	希望先名(具体的に)（例　会社名、作業所名、施設名もしくは職種）
	理由
第2希望	希望先名(具体的に)（例　会社名、作業所名、施設名もしくは職種）
	理由

進路や将来のことについて相談したいことがあればご記入ください。